

No. 1246

佐々木委員長を選出

— 第22回民社党大会 —

民社党の第22回臨時全国大会が、11月28日、東京平河町の日本都市センターで開れた。冒頭、春日委員長があいさつに立ち、正式に辞任を表明した。春日委員長は「心中期ナるところあって委員長を辞任させていただくことを決意しました。前進を図るためにはこの際委員長交代によって、党の心気を刷新することが最も適切であると考えたからであります。」と述べた。続いて役員選出に入り、後継委員長に現副委員長の佐々木良作氏を拍手による満場一致で決めた。春日委員長は党の常任顧問として活動していくことになった。民社党の第4代委員長に就任した佐々木委員長は「連合時代に対応するわが党の基本路線は具体的に実践に移されてきた。それは中道革新と称せられる健全な革新勢力の拡大結集をはかり政治転換を進めていくことであります」と述べた。このあと大会宣言を発表し佐々木新体制のもと民社党はスタートした。

前途多難、福田改造内閣

「福田内閣をどうこうという小さい問題ではない。この難しい局面を乗り切るため人身一新をする」臨時国会を終えた11月26日、福田首相は記者会見で内閣改造を発表。翌27日、大平幹事長を私邸にまねき、4時間半にわたり、今後の政局及び内閣改造の人選について語り合った。28日朝、党三役。大平幹事長は留任、政調会長に江崎氏、総務会長に中曽根氏を決定し、ただちに閣僚の人選に移った。

懸案の対米経済正常化を急ぐため、経企庁長官には宮沢喜一氏を起用、更に新設の対外経済担当相に民間から元駐米大使の牛場信彦氏を決定した。福田首相は改造内閣のスタートに当り、「政府、党の総力をあげ、決意をあらたに当面する課題の解決にまい進する」と談話を発表した。が、諸懸案「待ったなし」の情勢の中、福田改造内閣の前途は厳しい。